

多様な性のあり方と、幸せと人生と笑いを考える、にじいろたまご通信！

Vol.27
2018年 秋号

 **スクランブルエッグ**

URL <http://gochamazetamago.main.jp>

E-mail gochamazetamago@yahoo.co.jp

多様な性に YES! IDAHO メッセージ展&ミニ交流会

参加募集!

毎年 5/17 は、LGBT 嫌悪に反対する国際デー・IDAHO (※)。日本では、「多様な性に YES の日」という記念日になっています。この日にちなんで集められたたくさんのメッセージの中から、一部を展示紹介します！

当事者やアライの人たちから寄せられたメッセージは、今生きている一人ひとりの声です。普段は聞こえないくらいの小さな声も、文字になってそこにあります。

是非会場で、その声に耳を澄ませてみてくださいね(*^^*)

- 日時：2018年 11月 11日 (日) 12:30~15:30
- 会場：アピオあおもり 2階 小研修室 2
(青森市中央 3丁目 17-1)
☆入場無料、交流会は随時受付 (事前申込歓迎！)
- お問い合わせ先：スクランブルエッグ
E-mail : gochamazetamago@yahoo.co.jp

※現在は IDAHOT (International Day Against Homophobia, Transphobia and Biphobia) と表記されることが多いですが、イベント名は以前からの IDAHO という表記を使用しています。

6・7月、IDAHO メッセージ展を開催しました

活動報告



▲メッセージ展の様子 (7月7日)

▼大館市ではハーモニーフェスタ 2018 にも出展 (6月30日)



今年の「青森国際ナショナル LGBT フィルムフェスティバル」は、青森駅前に位置するアウガ 5 階のカジュアルにて開催されました。アウガでの開催は 2015 年以來のことです。

私は、昨年からスクランブルエッグの一員として、映画祭と同時開催される「多様な性に YES! IDAHO メッセージ展」に携わっています。昨年とは会場が変わったこともあり、雰囲気も違ってみえて、とても新鮮でした。

メッセージ展には、映画祭の開催前やプログラム前後、さらに終了後にも立ち止まってご覧になる方がいらっしやいました。また当日、設置したメッセージコーナーにも、数々のメッセージが寄せられました。少しずつ、着実に、性の多様性への関心が高まっていると感じ、大変嬉しく思いました。(文= まる)

ぽいぽい ピープル

バイセクシュアル（両性愛者）は、同性を好きになることも、異性を好きになることもある人のことですが、「多情な人」「誰でもいいんでしょ」というような誤解を受けることがしばしばあります。こうした誤解のためにカミングアウトが難しくなったり、居心地の悪さを感じる場合もあります。

異性愛者の人も、たくさんの異性の中から誰かを好きになりますよね。同性愛者の人も、たくさんの同性の中から誰かを好きになります。バイセクシュアルの人もまた、たくさんの人の中から誰かを好きになります。恋をするということは、自分にとって特別な人ができること。性的指向が異なっても。その気持ちに変わりないのではないのでしょうか。

～バイセクシュアルA社の場合～



お知らせ

にじたま会、始めました

今年度から、「にじたま会」というこじんまりとした交流会を始めました。セクマイの方や、そのご家族・パートナー・友人の方などが参加できます。

何ヶ月かに1回のペースでも、場所や内容を変えながら開催したいと考え、8月には弘前市周辺でお部屋を借りて初開催。10月には青森市周辺でBBQを開催しました。

冬期間は雪と交通の問題でお休みするかもしれませんが、無理のない範囲で続けていけたらと思っています。スクランブルエッグの公式Twitter (@gochamazetamago) などで告知していきますので、興味のある方は是非チェックしてみてくださいね！

(文=創)



河は流れる

—たまごを見つめる、なんとなくエッセイ

私は次の誕生日で40歳。インターネットが日常になってから20年、社会人として振る舞うようになってから15年という所だろうか。今やSNSもネットニュースもアルゴリズムによって自分好みにカスタマイズされ、日常は狭き世界となってしまった気さえする。それでも、世界は少し変わったのだと思う。LGBTという言葉は世間に知れ渡り(たとえ悪意混じりであれ)、ジェンダーや年齢によって人の服装をあこれこれ言うのは格好悪いこととされ、相手が男性でも女性でもセクハラは存在することが認められ、私の会社の健康に関するアンケートの性別欄には、(性別:その他は無かったけれど)自認の性を選ぶように注釈が加えられた。ハレルヤ。

(文=咲)

A...トランスジェンダー。女性から男性へ性別変更し、女性パートナーと子育て中
T...Aの高校時代の同級生で、2児の母

カミングアウトについて

A：僕が君にカミングアウトしたのって、高校も卒業して、東京の大学に行った君のところに押しかけた時だよな？
(補足・ジェンダークリニックの診察を受けようと上京した際に泊めてもらった)

T：おっしやる通り。なんで東京来たの？って話になり。
でも高校時代、君と話していて「なぜここでそんな苦痛な顔をするんだろう？」って時があったんだ。例えばだけど、君の美肌を褒めたことがあって、いいねーって言うと、君は非常に屈辱的っていう顔してて。「いや、別にほしくてこんなじゃねーし」みたいな。

そういう、たまーに積み重なる違和感はある。それが大学生になって君から話を聞いて「あー、そういうことね！」っていう感じだったよ。

A：えー、なんか自分の高校の頃のそういう記憶って忘れる。気を遣わせちゃったね〜(汗)でも大学生の時に話したのは、その1回きりじゃない？

T：そうだと思う。私は大学出てから戻ってきたけど、君は大学を途中でやめてその後東京に行っちゃったりして。でもY(同級生)経由で結構聞いてたんだよ。

A：Yとは時々連絡とってた。僕が彼女を連れて帰省するっていう時にみんなで飲む話になって、一回彼女連れて飲み会に行ったことあったよね？あの時も改めてみんなにカムしたわけじゃないし、Yが根回ししてくれてたのかな〜と思ってた。

T：みんなフツーにいたよね。君の場合は、高校の時の性別がどうかではなく、君というキャラクターでそこにいた。そんなに違和感なかったんじゃないかな。

A：結局、自分からみんなにちゃんとカミングアウトしてないんだよな(笑) どういう流れだったのかあの時にいた人に聞けばいいんだろうけどさ、カムしてない手前、改めて聞くのもな〜みたいな。

戸籍の名前が変わった時は、Yがみんなに「彼は〇〇君になったから」って根回ししてたっばい。

T：それ聞いた聞いた。「名前変わったの?! 〇〇君なの?!」みたいな(笑)

でもさ、自己紹介でセクシュアリティっているのかな?

A：いや〜言いたい人は言えいいだろうけど、強制ではないよね。この間行ってきた同窓会とかだと、自分は before、after してるから「誰？」って話になっちゃうし、カムしてない人には一応「元は女子だったんですけど」って言うてみたりした。自分もあんまり知らない同窓生とかだと

「誰？」って思うからさ。でも普段は別に、いっかって思う。before のままだったら、わざわざ言わないだろうな。



押しつける空気感

T：東京で飲んだ時に、就職の話だったか、普通の大きい会社に入れない、入りたくないって話を君にされて、「なんで? 大会社は雇用も安定してるし、個人ではできない仕事にもチャレンジできるし、サラリーマン最高だよ」って考えなしに私が話したら、君は「そもそもスカートを穿きたく」って言ってて。

その頃は何もわかってなくて、そんなの仮の姿だと思っていればいいじゃないかと思ってたけど、そういう問題じゃないんだよね。

A：そうそう、手術を受けて性別を変えたって話すと、「身体を変える必要があるのか?」って聞かれることが時々あるのよ。そんなことしなくても男の服装したり男らしく振る舞ったりすればいい、どうして手術までしなきゃいけないのかわからないって。この前は「パートナーがいると聞いたけど、相手はあなたの何に惹かれたのか?」って質問もあったなあ。いやそれはパートナーに聞く必要があるけど、もう LGBT と関係のない話だよな。相手のどこを好きになったかなんて(笑) LGBT って特別に捉えられたりするけど、そんなに変わりないんだけどな。

T：「もし自分がそうだったら」っていう置き換えができないのかな。

A：それか置き換え過ぎちゃうのかも。相手になったつもりで考えるんじゃなく、相手の位置に自分のまま立っちゃうとか。「俺ならこうするのに」って主観で考えちゃう。

T：実は会社の偉い人とかでも、そういうタイプの人もあるよね。

A：自分の主観を世の当たり前だと思っている人が、当たり前

だと思っている人が、当たり前かのように喋っていると、みんな「それが当たり前なのかしら」って思って黙っちゃったりするじゃん。そうやって多分仕事しづらい環境になるんだろうけど。セクハラもそうだよな。

T: あ！そうそう、今さ「彼氏いるんだら」とか「彼女いるんだら」とか「結婚どうすんだ？」みたいな話って、うちの会社でも取り組まれてきてなくなりつつあるんだけど、それで居心地が全然違う。本人が自分のことを話すなら、「ああ、この人は話したいのね」って思って聞きさ。仕事場で雄々しくいたければ雄々しくいればいいし、家に帰ってから甘えたっていいし、ご自由にどうぞって思う。

A: 人に押しつけなければいいってということだよな。

子どもの話

A: LGBTのことを変だとは思わないけど、自分の子どもがそうだったら受け入れられないっていう人もいるな。

T: 今子どもたちを見てると思うんだけど、ものを知りたい、あれもこれもやりたいって一生懸命世界を広げていく時代と、あとはそうして見てきた中から「僕はここ！」って決めて、その世界を大事にしていく時代ってあるんだなって。世界を広げていく課程で、そりゃぶつかるとも思うんだよ。違う価値観を持つてるんだしさ。ぶつかっても、お互いに許容できる社会だといいいね。

今だから思うけど、10代20代の頃のもうちょっと青臭い頃の正義感で「こうするべき」って拳を振り上げることがあったとしてもさ。「あれ、もしかして今のチョー痛かった？ごめん！ごめん！」って言い合えるのがいいな。

A: あの時のあれは、拳を振り上げてしまったんだな、過ちだったんだなって振り返られる人間でありたいよね。

T: そうだね。人を尊重することじゃない？人の価値観を大事にするって。

A: 尊重するとか大切にするとかのイメージが、マイノリティの話になるとデモみたいな出来事が目立っちゃって、「何でも権利主張する」みたいに言われたりするんだけど。でももっとすごく根本的なことなんだよね、きっと。

T: 人権っていう意識がすごく薄いよね。他の問題と別にして、LGBTの話は保留しておけばいいでしょみたいな。

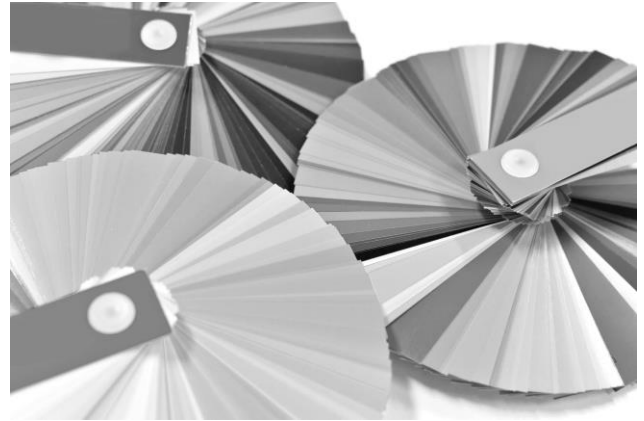
A: まだLGBTは趣味だと思ってる人たちがいるからなあ。

T: 人権って言う言葉、最近好きだよ。そもそも人を尊重するってそこからだって気がしてる。「これが人権です！」って声高に喋るのは好きじゃないけど、母子手帳の子どもの人権とか見ると、そうね、って(笑)子どもが生まれて、見え方が変わったところもある。

A: 子どもを見ていて、「命ってこういうことか」って感じるようになったかも。自分自身は「命を大切に」とかよくわからなかったし、生きていけばいいことがあるっていうのもちっとも心に響かなかったんだけど。この世に命が生まれてくることは、それだけですごいことなんだな、って。

「人権」っていうとびんとこなかったんだけど、命のところまで落とし込まれていない感じがするのかも。こういう人には人権はいらない、とか平気で言う人もいるし。でも、いる・いらないじゃない、そこに存在するだけで持っているものだし、その重い軽いを他の人間が決めることでもないよね。でもそういうニュアンスを伝えることが難しく、あんまり「人権」っていう言葉使わないんだけど

.....human rights って言われる方がなんかしっくりくる。ヒューマンって、人間そのものの本来のことっていう感じがするのかな。



100パーセントなんてない

T: ちょっと話はずれるんだけど、できれば間違ったことをしても、「あ、それ違うよ」「ごめんごめん」って言えるといいよね。あんまり強く責められると、怖くて何も言えなくなっちゃう。でも沈黙からは何も生まれなくて。どうして間違っていたのかもわからないままになるし。

100パーセントなんて分かり合えないんだから、コミュニケーションをとっていく中で、〇〇はあれが苦手だとか、〇〇は酒が好きだとか(笑)、ひとつずつ知って人間関係を作っていくしかない。だから私も結構君の地雷踏んでいるかもしれないけど、怒らずに返してもらえるのはありがたいよ。

A: 他人のことがわからないのはお互い様だからさ。セクシャリティのことだろうが、他のことだろうが一緒じゃん？自分は相手のことが分からないんだ、ってとに戻って、そこから人間関係作りたいたいよね。

メルマガ登録受付中！！

スクランブルエッグでは、主催イベントなどをお知らせするメルマガジンを年に数回ほど発行しています！登録は無料です(^-^)
登録をご希望の方は、件名に「メルマガ希望」と入れて、gochamazetamago@yahoo.co.jp までご連絡くださいね！